

短編集 #あれそれがないと生きていけない より

「あなた」がないと

生きていけない

新井 通りすがり。

律 女子大生。過保護な父親に悩んでいる。

達也 律の父親。けっこう過保護。

律 お父さん
達也 うん
律 あの… さあ
達也 うん？

律 お話があります
達也 え、急にどうした
律 お話が、あります
達也 話
律 座って
達也 座…
律 座って
達也 わかった

律 大事なお話です
達也 大事な？
律 そう、大事な しかも、私だけである話じゃないです
達也 どういうことだ
律 ここに呼びたい人がいます
達也 ……
律 呼びたい人が、います
達也 えーっと… お母さん かな？ お母さんは今日一日いないけど
律 ちがうよ。
達也 えっと、じゃあ、友だちとか
律 まあ、ちがうかな。
達也 …大事な話なんだよな？
律 うん
達也 え？
律 うん
達也 え、律？
律 呼ぶね
達也 ちよつ、律？
律 呼ぶから
達也 律、律、律、
律 なに
達也 いや、律 律、

律 呼ぶねって
達也 だ〜〜〜 だれを？
律 …それは、まあ、みてもらったほうが。
達也 律う？
律 ヒロさん、入って

新井 ㊦

新井 どうも…
達也 ……………
律 ……………
新井 え、律さん？
律 ん？
新井 すっごい入りづらかったけど
律 それはごめん
新井 まあ、うん あ、あの〜、えっと、すみません、新井です
達也 ……………
新井 あ、新井ヒロです
達也 ……………
新井 えっと
律 ヒロさんも、座って
新井 あ、はい

律 うちのお父さんです
新井 はい おとうさん、どうも
達也 ちょ、ちょっと待って、律
律 うん
達也 新井… アライヒロ？ アライヒロ…
新井 つす
達也 アライヒロ…は誰？
律 ……………
新井 ……………
達也 え、誰？
律 ……私の…
達也 ともだち
律 恋人です

達也 あ~~~~~
新井 えっなんかすいません
律 謝らないでいいから
新井 あ、すいません
達也 待って待って、律、待って ちよつと待って
律 続きあるんだけど
達也 いや、ちよ、律？
律 私たち、結婚しようと思つてて。
達也 ア~~~~~っ！
新井 なんかすいません
律 だから謝らないでいいって
新井 そうだった
律 謝るんじゃないでさ、ね？
新井 あ、すいません、あの 娘さんを僕にください
達也 あ~~~~~！
律 お父さん！
達也 ちよ、ちよつと待って
新井 はい
達也 と りあえず無理。
律 ああ、なんか 水とか飲む？
達也 いや水とかじゃなくて あの、え、アライヒロ？
新井 はい
達也 あの、それは、ふつうに、無理だ。
新井 え、それってなんですか
達也 その 娘さんを…のやつ
新井 娘さんを… 僕にくださいのことですか？
達也 あ~~~~~そうそうそうそれ 無理だあ。
律 なんですよ
達也 律~~~~
律 うん
達也 むりだあ
律 無理じゃないよ
達也 お父さんが無理に決まつてることくらい、律ならわかるだろ
新井 大丈夫ですか
達也 アライヒロ
新井 はい

達也 君に優しさがあるなら いますぐに帰ってほしい
新井 やちよっとそれは……
律 だめにきまってるじゃん
新井 ですよ
律 とにかく、私、この人と結婚するから
達也 無理、だめ
律 話も聞かないで？
達也 聞いたらお父さん死んじゃうが
律 じゃあ、なんにもわかんないまま、私が結婚しちゃっていいんだ
達也 それは それはだめだ
律 じゃあ、ちゃんと認めてよ

沈黙

達也 アライヒロ は…
新井 あ、はい
達也 律の なんなんだ
律 だから恋人だってば
達也 ちがう！ あとそれ、あんまり言うな そうじゃなくて、なんだ、あれだ、あの、どこで知り合ったみたいな、そういう
律 あゝ それは
新井 公園… ですね
律 え？
新井 え？ そうじゃん
律 そうだけど
達也 公園ってなんだ
新井 なんか、律さんが声かけてきて
律 言い方
新井 だってそうじゃん。
達也 なに、え、律が？ 公園？ 律から？
律 まあ それは うん、そう。
新井 俺、定期的に公園で半日くらいぼーっとしてる日があるんですけど、なんか急に律さんが 「暇なら付き合っほしい」って
律 ちよ、ちよっと
新井 え、だってそうじゃん。
律 そうだけど！

沈黙

達也 ……………アライヒロは、何をしてる人なんだ

新井 何をというと

達也 律はまだ大学生だが

律 えっと、ヒロさんは

新井 ゆるくいろんな仕事したりしなかったりですね

律 え

新井 まあ、ふつうの正社員やってたら公園でボンヤリとかしてられないし

やりたいときに、まあ、しんどくない感じのバイトとか、日雇いとかがやって

何してるかって言ったら、そんな感じっすね

達也 ……………貯金とかは

律 ちょっと、お父さん

新井 だいたい、その月生きていく最低限だけくらいですね

達也 ……

律 ま… あでも、今時そういう 叶えたい夢のためとか、よくあるし

新井 いや、特別夢とかって言うのじゃ

律 まあ、生き方はいろいろあるし！ 自由、個人の、自由だしね！

達也 ……………なるほど

律 うん…

沈黙

達也 律

律 はい

達也 少しここで、待ってなさい。

律 え、待つ？

達也 お父さんは 少し、頭を冷やしてくる。

律 ああ、うん……

達也 アライヒロ

新井 はい

達也 君は… 君は 律と結婚して生きていくというには、ちょっと

それは 無理だ。

新井 え あゝ…

達也 **家族を持つって思ったなら、君のその感じは 無理だ。**

律 無理って

達也 律

律 ん

律 達也 お父さんは …お父さんは、律がいないと生きていけないよ。
……

達也 Out

律 ふー……

新井 ……おつかれさまです

律 え、ああ、いや

新井 これ、いけてました？

律 まあ、いけてはいますよ

新井 ならよかった

新井、スマホ弄りはじめる

律 …あの

新井 はい

律 あの、でも、正直 もうちょっとうまくやってくれるかと思ってました。

新井 あ、やっぱ？

律 はい

新井 なんか 俺もよくわかんなくて、塩梅が。

律 いや、塩梅とかそういう次元じゃなかったですよ。

新井 それはすいません。

律 いえ、まあ こっちが悪いんですけど。

新井 悪いとまで言いませんけど

律 …俺、多少は打ち合わせしたほうがって言ったじゃないですか。

新井 だってなんか、勢いがないと だめになるかなって

新井 それは、律さんの計画が？

律 じゃなくて、ヒロさんの気分が。

新井 俺の気分ですか

律 そうです だって、こんな

新井 会ってすぐの他人の恋人役とか？ ふつうやらないですよ。

律 ああ、そもそもソコですか。

新井 はい ヒロさんが正気に戻っちゃったら断られるかもしれないし、

もう、やるならすぐやったほうがいいだろうなって思ったんです

新井 まあ、確かに 暇だったからって感じだったんで、

あんまり時間空いたらだるくなってたかもしれないですね

新井 そういう問題じゃないんですけど。 …でもなんか、納得しました。なにがですか？

新井 ヒロさんの話聞いて。 ヒロさんは、マイペースなんですわね。

新井 たまに言われますわね

でしょうね、ほんとなんか …自由というか。

新井 素でしゃべると俺こうですよ だからなんか どうします？

設定…的なやつですよ？

新井 そうそう 俺だって、こんな感じだって指示があればさすがに守りますよ。

律 ああ… うーん。 うーん… …いや、いいです このまま行きましょ。

新井 いいんですか？ 俺、定職ついてないし、公園でぼーっとするし、貯金もないですけど。

律 んん… でも、そのくらいのほうがいいんです、きつと

新井 まあ「シヨック療法」としては、そうか。

律 ああ、それもありますわね

新井 つていうか、たしかに、律さんの言う通りの人でしたね お父さん。

律 でしょ？ ほんつとに過保護で。

新井 でも、悪い人じゃなかったんで なんか、可哀想になりました

律 いいんですよ、そんなの！

新井 お父さんをシヨックでバグらせるのがヒロさんの役割なんですから。

新井 改めて聞くとひどいですわね

律 仕方ないじゃないですか 私だって今までいろいろ頑張ってきましたけど、

何したってお父さんの過保護、直らないんですもん

新井 「律がいないと生きていけない」って言ってましたね。

律 ほんとですよ …ほんとに、もう。

新井 俺はまあ、バチバチに独身なんで 全然わかんないですわね、そういうの。

律 私だって わかんないですよ

新井 まあ、そういうもんすかね

律 はい

新井 律さんは、不自由なんですか？

律 え？

新井 お父さんの過保護が嫌ってなんか、そういうことかなと

律 不自由 私が不自由、ということはないと思います。

お父さんは過保護だけど、わたしを縛るようなことはあんまりしないので

新井 ああ、そうなんです
律 はい、まあ

達也 ㄣ

律 あ

新井 あ、おかえり… なさい？ 俺が言うことじゃないか。

達也 律

律 は、はい

達也 律は、なんで アライヒロと結婚したいんだ？

律 それは まあ まあ、好き…：～な人だから？ ねえ？

新井 え、あ、はい そうですね？

達也 それだけ？

律 う うん

達也 じゃあ、アライヒロのどういところが好きなんだ

律 えっ！？ え、えゝ 自由…：～なとこ

新井 なんかありがとう

達也 アライヒロは律のどういところが好きだ

新井 えっ えっ？ えゝゝゝゝ えゝゝゝゝゝゝ

律 ちよっと

新井 あ、俺も 俺も、律さんの自由なところが好きです はい

達也 なんかけっこう、他人とかに すごい無茶ぶりできるとこ はい。

達也 そうか

達也 …：～お父さんも、いま、ちよつとな。ゆっくり考えたんだ。

律 うん

達也 律のそれは バグみみたいなものだよ。

律 …：～ばぐ？？

達也 恋愛っていうのはそういうもんだから 自分が考えてるようであってない。

達也 なんていうか、正常じゃないんだよ、全然。

律 …：～だから、だめってこと？

達也 そうだ 律はいま、考えてない。 恋愛に囚われている、そういうときの思考は

律 いまの律は正常な思考じゃないと思う、だから、だめだ。

律 …：～

達也 まあ、その…：～ 律には、嫌なことを、言っているとは思うけど…

律 自分のことは、棚に上げるんだ

達也 え？

律 お父さんだって同じようなものじゃん

私がないと生きていけない、とか言うけどさ、それだって「バグ」じゃん
お父さんは、私の、「お父さん」だからそんなこと言ってるんでしょ

達也 律、

律 恋愛に囚われた思考が正常じゃないなら、親子の情に囚われた思考も異常じゃん

達也 ……

律 ……ヒロさんと話してみて

新井 えっ??????

律 今度は私が、ちよっと出てくから。お父さん、ヒロさんと話してみてよ。

新井 ちよっと待って律さん、えっ？ 俺?????

律 ヒロさん

新井 え、ちよっと どのしろと

律 そのままでいいよ

新井 そのまま、ふつうに、自由なヒロさんとして 話してもらって。

新井 ええ……

律 じゃあ、そういうことだから。お父さん

律、Out

沈黙

新井 なんか……………はい

達也 うん

新井 え……………なんか……………俺、殴られたりしますか？

達也 今のところは、その予定はないけど

新井 あ、よかった

沈黙

新井 あの、お父さん？

達也 君のお父さんではないぞ、俺は

新井 あ、じゃあ 三崎さん？

達也 それじゃ、律と区別がつかない

新井 どうしたらいいんすか

達也 ……三崎達也

新井 え 「達也さん」って呼ぶってことですか？

達也 そう

新井 たつ… え、どういう状況…

達也 **アライヒロは、律が俺に対してどう思ってるかって話 聞いてたのか**

新井 いや 俺もまあ、さっき初めて聞きましたね

達也 そうか

新井 はい

沈黙

新井、スマホ弄りながらイヤホンしようとする

達也 自由だな

新井 えっ、あ、はい？

達也 アライヒロは、自由だな 本当に

新井 それ、律さんにも言われましたね

達也 言われるだろうよ

新井 **そんなつもりでもないんですけど**

達也 そうなのか

新井 **なんか、別にふつうにっていう**

達也 ふつうに。

新井 はい。

達也 ……自由でないと、生きていけない、みたいな人種かと思った。

新井 あ…？ **そういうわけではないですね。たぶん。**

達也 そうか

新井 はい

達也 「三崎達也」は、そういう人種だった。

新井 え、おとうさ 達也さん、が？

達也 そう 公園でぼーっとしたい君のそれは、正直わかる

俺はそれを週6でやった結果、大学を中退した

新井 **おお**

達也 大学を中退してから、一時期はネットゲにもすごくハマって、

現実そっちのけで最強戦士をやっていた時代がある

新井 **自由だ**

達也 ゲームの世界を駆けまわるうちに、実際旅を試みたくなくて、

世界各地をヒッチハイクで回る時代もあった

新井 自由だ！

達也 「三崎達也」は、いつでも、どこでも、自由でないと生きられなかった

新井 説得力はすごい…ですなぁ

達也 でも、結婚して、娘が生まれてからはそうもいかなかったよ

新井 働かないといけないですもんね

達也 それもある あるけど 律のために生きるようになったから。

新井 ああ……

達也 仕事が終わったらすぐ家に帰るから、ひとりで公園なんか行かないし

趣味に使う金があったら律に使うし、いい景色をみたら家族の顔が浮かぶ

新井 すげえ

達也 律がああ言うのもわかるよ うん、俺も、自分でときどきビックリする

自由を愛する「三崎達也」がどんな「お父さん」になっていくんだ

正直、心のどこかでずつと、そのことには困惑してる。

新井 なんがちよつと こわいですね

達也 そう、怖いんだよ 異常ともいえる、いつそ体験してほしい

新井 そこまで

達也 やっぱりだめだ。アライヒロは律と結婚しようとしてるんだった

新井 おお

達也 こういふところなんだろうけどな 律が言うのは

新井 正直、マジでわかんないです

達也 そうだろうよ

新井 …あれですか、それはなんか、さっきの「親子の情に囚われてる」って、

達也 話ですか

新井 ああ まあ、そうなんだろうな

新井 へえ…

達也 でも、ちよつと 律が思ってるのとはちがう

新井 え、そうなんですか

達也 「律がいなくて生きていけない」っていうとなんか、不自由に聞こえるし

新井 「囚われてる」みたいな感覚もなくはないよ。

達也 でも、なんだろうな 俺は 不自由ではない、と思う。

新井 なるほど？

達也 親子の情によるバグに、知らない間に翻弄されてるわけじゃない

新井 「律がいなくて生きていけない」っていう異常な気持ちを自分で選んだ、

達也 これで生きていくっていうのは俺が決めた。

新井 俺が選んでいる限り、なんていうかは俺が決めた。

新井 おお…

達也 アライヒロはよくわかんないだろ

新井 まあ、正直ぜんぶはわかんないですけど 理屈はわかりました たぶん
達也 律にも伝わると思う？

新井 え、ああ、はい？

達也 よかった じゃあ、律 入ってきなさい

律
I

律 ……

達也 聞いてただろう、律

新井 え、そうなんですか

律 うん、聞いてた

達也 安心はできたか

律 うん うん、ちよつとできた。

達也 お父さんも、今までわざわざ伝えたりしなくて ごめんな

律 私も、言っただけじゃなかったし？ でもわかるんだね

達也 わかるよ 律はやさしいから

律 やさしいとかじゃないよ 私は 私が、嫌だっただけ。

達也 お父さんが私のせいで不自由になってるんだとしたら、なんか、嫌じゃん。

達也 ちがうって伝わった？

律 うん いや、不自由ではあるのかもだけど 私が、思ったのとはちがった。

達也 律

律 うん

達也 ほんとうの大事な話はなんだ？

律 ……

達也 律の名前はさ、「どんな熱に浮かされても、一度は自分を律して、

自分の選択で人生を送っていきけるように」って意味でつけたんだよ

律 そうなの？

達也 そう だから、もしどんな話でも それが一見バグみみたいな気持ちでも

その選択のなかにきちんと律がいるなら、お父さんは応援できるよ

律 そっか

達也 うん

律 ……大学 卒業、したら、海外の大学院に行きたい

達也 うん

律 就職も遅れちゃうし、お金だっただけかかるし、今のところまだやる気しかないし

達也 でも、やりたいって、すぐく思ってるから 選びたい

達也 うん

律 その、それが えっと、私の選択、だと思う
達也 うん ……わかった、いいよ
律 ほんと！？
達也 お父さんにこのタイミングで言ってくるってことは
お母さんにはもう、多少話をしてあるんだろ
律 うん でも、海外なんてお父さんが絶対ダメって言うと思って
達也 そりゃ お父さんは、律がいないと生きていけないから
律 そんなひとりで海外だとか… 海外だとか…
律 おとうさん
達也 はい わかってる、わかってるよ
律 ありがとう
達也 お父さんが 自分の人生を生きていくために「律」を選んだみたいなの
律 そうというのが、律にも見つかったら 嬉しいと思うよ
律 うん
達也 ……いつてらっしゃい、律
律 うん まあ、まだもう少し 先だけどね！
新井 あの 俺、帰って良さそうですか？
律 あ、すいません
新井 いや、いいですけど なんかマナビでした、こっちも
律 ぜったい思っていないですよ
新井 いやいや、本当、ふつうに。
達也 結局、アライヒロはなんなんだ ……恋人っていうのは、本当なのか
新井 いやマジで通りすがりの他人です
律 ほんとに公園で捕まえて来ただけの他人です
達也 ……
新井 達也さん？
達也 よ～～～かった～～～
新井 そこまで
達也 やっぱり父親としては律のために生きてくれる人がいいんだよ
律 アライヒロはちょっと 自由すぎる
達也 お父さんみたいなレベルの人、さすがに無理な気がするんだけど。
新井 それならもうそういうことだよ あゝ あゝ、よかった
達也 そこまで言われるとちょっと傷つくんですけど
新井 悪い悪い そうだ、うちの問題に巻き込んでしまったことだし、
達也 なにかお詫びに奢ってやろうか

新井 え、いいんですか 初対面の他人なのに？

達也 俺はそういうのいけるタイプだよ、自由だから

新井 あざす ぜひもう

達也 このまま行くか？

新井 ああもう、ぜひぜひ

達也 よし、律も支度しなさい

律 え、ほんとに ヒロさんも一緒に いまから？

新井 はい、俺はもう

達也 じゃあ、俺たちは先に外行くか

新井 ありがとうございます

達也 あ、でもこれを機に律と仲良くなって本当に… とかやめてくれよ

新井 たぶんないんで大丈夫です

達也 それもそれでなんか腹立つな

達也、新井、話しながら Out

律 なんか… 自分勝手なひとたち！

律 Out

おしまい